

双生児間の相互関係と共同体意識について

教育心理学研究室

三木 安正 ・ 天羽 幸子

われわれは、双生児の行動観察をつづけているうちに、同じく一卵性双生児の中でも、その2人同志の関係には、相互に引き合う傾向の強いものと、相反撥する傾向の強いものがあり、これをいくつかの類型にわけてみたのであるが、そうした関係が生ずる原因として、双生児の共同体意識といわれるものをとりあげてみることにした。別稿で述べてあるように共同体意識といわれるものの内容や定義は明確なものではないが、これを若干のカテゴリーにわけて考察した。

いずれ共同体意識といわれるものの輪廓や本質も明らかになって行くと思う。

調査の対象となったのは昭和29年から31年に入学した双生児即ち現在の中学1年より3年に在学する双生児と今年入学を志望した双生児でEZ男子40組、女子40組（ZZは組数が少いため省略）である。

調査方法は共同体意識に関する質問紙によって、共同体意識がたかいかひくいかを調べた。共

同体意識に関する質問紙の作成には、共同体意識を一応次のような4つのカテゴリーにわけられるものと考えた。即ち

- (1) 相手と自分とを同一視するような傾向
- (2) 2人いることを喜ぶ共存的感情
- (3) 相互に依存しあおうとする相互依存性
- (4) 2人以外のものに対する共同防衛

の4つである。このそれぞれについて6~7項目ずつ合計26の質問項目をつくった。そしてそれぞれの項目に共同体意識のたかいような答え方と低いと思われるような答え方、またいずれともつかないような答え方、わからない、その他という欄をもうけてこれを○でかこむようになっている。そのほか、わからないといってもそういうことを経験していないのでわからないのか、または経験したがどうしてもわからないのかを区別して答えるようになっている。

質問項目は次のようなものである。

氏名	学年	中学	年	組	A児（どちらかを○で） B児（かこんでください）
----	----	----	---	---	-----------------------------

大きい文字でかいてある文章は、途中できれっていますが、これをよんで、あなただったらどうするか、またどうしたいと思うかを考えてください。そして大きい文字でかいてある文章の下に、小さい文字でかいてあるいくつかのことばの中から、あてはまることばがあったら、○をつけてください。もしなかったら、その他とかいてあるところにあなたの思ふことをかいてください。

また()のなかに、いくつかことばがかいてあるものもありますが、これにもあなたの思っていることにあてはまる場所に○をつけてください。たとえば、“わからない”のところ○をつけたならば、それはどういふふうにわからないのかをはっきりするため、そういうことがなかったのだからわからない、または、そういうことがあったがどうしてもわからないのとどちらかに○をつけてください。

つぎに“もしも”ということばが、はじめについている文章は、今までにあなたがたが一度もそういうことになったことがなくても、もしも^{おいて}そういうことになったらと頭の中で考えて、かいてください。

1. 相手(あなたの片方の兄弟のこと)が人からほめられているのを見ると

- ①私もうれしくなる ②相手のことだから別になんとも思わない ③わからない(そういうことがなかったのだからわからない) ④その他

2. 相手がかなしそうな顔をしていると
 ①わけをしらなくても私もかなしくなる ②すぐにわけをきかないと心配だ ③相手のことだから別になんとも思わない ④わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ⑤その他
3. もしも2人いっしょにいる時、相手が先生にあてられたりすると
 ①私もはっとする ②相手のことだから別になんとも思わない ③わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ④その他
4. 相手が病気でくるしんでいると
 ①私もくるしくなる ②くるしくはならないが心配でそばをはなれられない ③心配だが別にかんびょうしない ④お母さんにいわれてかんびょうする ⑤相手のことだから別になんとも思わない ⑥わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ⑦その他
5. みんなの前で、相手がなにか失敗した時
 ①私も自分のことのように恥しくなる ②ほかの人が自分の方をみているような気がするから恥しくなる ③相手のことだから別になんとも思わない ④わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ⑤その他
6. 相手がお母さんに、しかられていると
 ①私もしかられているような気がする ②相手のことだから別になんとも思わない ③わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ④その他
7. 双生児として生れたことを
 ①私はうれしく思っている ②いやだと思っている ③別になんとも思わない ④わからない(いい時もわるい時もあるから そんなこと考えたことがないから) ⑤その他
8. 電車の中で2人ならんでこしかけている時、人にみられると
 ①私は平気ですわっている ②本当はならんでいたいのだが恥しいからはなれる ③気になるががまんしてすわっている ④別にならんでいたくもないがはなれない ⑤別にならんでいたくもないのではなれる ⑥わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ⑦その他
9. 町で見知らぬ双生児をみると
 ①その人たちが双生児でいいと思う ②その人たちが双生児でかわいそうに思う ③わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ④その他
10. 自分と同じような人間がもう1人いるということを
 ①私はとてもうれしい ②べんりだからいい ③なんでも半分で損だと思ふ ④わずらわしく思ふ ⑤わからない(いい時もわるい時もあるから そんなこと考えたことがないから) ⑥その他
11. 他人があなたと相手とを、まちがえた時
 ①相手と自分とは双生児で、どちらでもそうちがわれないのだから、まちがったままにしておく ②双生児だからまちがえるのしかたがないと、ちがっていることを教えてやる ③いちいちめんどろで相手のいることがいやになる ④わからない(そういうことがなかったので そういうことがあったが) ⑤その他
12. もしも相手がいなくなったりすると
 ①心配でさがさずにいられない ②相手は相手でなにかしているのだろうとほっておく ③わからない ④その他
13. 将来、相手とわかれて、くらさなければならぬとしたら
 ①さびしく思ふ(いっもできるだけいっしょにいたいから、2人いっしょの方が心強いから、) 相手^{しょうらい}にたよれるから、その他
 ②別になんとも思わない(どうせわかれてくらさなければならぬのだから、あまり2人いっしょにいたくないから、その他)
 ③わからない ④その他

14. 相手が宿題をやりはじめると
 ①いっしょにやる(おたがいにたすけあってやるので、相手のわからないところ)を教えてあげるので、相手から教えてもらえるので、
 ②別々にやる(自分がやりたくなった時にやるので、私もまけずにやりはじめるが、おたがいに協力しないので)
 ③わからない ④その他
15. 相手がふとんをしいていると
 ①私もいっしょにしく ②別に手伝わない ③お母さんにいわれて手伝う ④わからない ⑤その他
16. 相手が雨戸をあけていると
 ①私もいっしょにやる ②別に手伝わない ③お母さんにいわれて手伝う ④わからない ⑤その他
17. 相手がゲーム(トランプなど)をしていると
 ①私もいっしょにやる(いっしょにやって2人で協力してほかの人をまかすので、遊ぶときにはいつもいっしょなので、) ②いっしょにやらない(いつもまけるのでいやだから、その他) ③わからない ④その他
18. 1つの仕事を2人で別々にやるよりも、いっしょにやった方が
 ①うれしい(1人ではなんとなく心細いから、相手がいろいろ教えてくれるから、その他)
 ②いやだ(1人でやった方が自分の思うとおりにできるから、相手はあまりうまくないので損をするから、その他) ③わからない ④その他
19. 一つの仕事を2人で協力してやるよりも、競争してやる方が
 ①すきだ(おたがいにいっしょうけんめいになって早くできるから、いつも自分の方が勝つから、その他)
 ②きらいだ(なんでもおたがいに力をあわせてやった方がよくできるから、相手はなんでも上手でいっしょの方がいいからその他)
 ③わからない ④その他
20. はじめてのところにおつかいに行くとしたら
 ①2人いっしょにいきたい(1人では心細いから、相手の方があつかいなど上手だから、いつもいっしょに行くから、その他) ②私1人で大丈夫だ(いつも別々に行くことにしているから、相手がくるとかえってめんどろから、その他) ③わからない ④その他
21. もしも相手が友だちから、いじめられているとしたら
 ①私はたすけにいくつもりだ ②たすけにいかないつもりだ ③わからない ④その他
22. もしも友だちが2人をいじめにきたとしたら
 ①2人で協力してかかっていくつもりだ ②相手はつよいから相手にまかせて私にはげるつもりだ ③私ひとりで友だちにぶつかるつもりだ ④わからない ⑤その他
23. 将来(しょうらい)相手の方に困ったことがおこったら
 ①たすけてやろうと思う ②助けないつもりだ ③わからない ④その他
24. 自分たちのいやなことは
 ①2人だけでひみつにしておく ②私はだましているがいつも相手の方がいってしまう ③相手はだましているが私はすぐいってしまう ④わからない ⑤その他
25. 学校で相手がなにか失敗した時、家に帰って
 ①私は家の人に話す ②私はだましている ③わからない ④その他
26. もしも相手がわるいことをしている時
 ①私は加勢する ②いけないととめにいく ③ほっていく ④わからない その他
 その他、補助的にきいた項目を示すと、次のようなものである。

下の問をよくよんで、はい、いいえ、または、てきとうと思われるほうに、○をつけてください。

- あなたのお家ではあなたがた2人に同じ洋服をきせていますか。 (はい いいえ)
 あなたは、相手と同じ洋服をきたいと思いますか。 (はい いいえ)
- あなたお家で勉強する時、机は2人別々にもっていますか、それとも2人で1つの机をつかっていますか。 (別々にある いっしょにつかう)
- 教科書や文房具ぶんぼうぐは2人でそれぞれもっていますか。
 (はい いいえ 辞書などは2人いっしょにつかう)

4. あなたのお家では1人がほしいというとき、もう1人はそれほどほしくなくとも、かならず同じものを2つかいますか。それとも、そういうときは1人だけにかいますか。

(かならず2人にかう 1人にかう)

5. あなたは、2人で1つのものを共通につかうよりも、1人ずつ別々にもっている方がうれしいですか。

(はい いいえ)

6. あなたが学校から旅行にでたようなとき、お家の人からそれぞれ別々に1枚づつはがきをもらうのと、2人のあて名をかいた1枚のはがきをもらうのとどちらがうれしいですか。

(1枚づつきた方がいい 2人いつしよでいい)

またお家の人には、どうなさるでしょうか。

(別々に1枚づつくれる 2人いっしょに1枚くれる)

7. あなたがたのお父さんお母さんは2人をできるだけ同じ方面にすすませようと思っているでしょうか。それとも、それぞれ別々の方面にすすませようと考えていらっしゃるでしょうか。

(同じ方面に 別々の方面に わからない)

8. あなたがたは小さい時(小学校時代)とくらべ、2人いっしょにいたり、相手のことを考えたりすることが少なくなったように思いますか。

(少なくなったように思う 多くなったように思う 小さい時と同じだ)

9. あなたがた2人の仲はどうですか。

(仲がよい 普通 わるい)

小さい時の2人の仲は、

(今より仲がよかった 今よりわるかった 今と同じ)

この結果については共同体意識のたかいもの、ひくいもの、いずれともつかないもの、わからないものにおけ、共同体意識のたかいものを得点として数えた。

1. 共同体意識を全体的にみて

a) 得点の平均値の比較

質問紙によってえられた共同体意識について、共同体意識のたかいとみとめられる+の得点を、A児のとB児のとをまとめて、学年別、男女別平均値をだし、これを比較すると第1表のようになる。

第1表 共同体意識の得点の平均値の比較

学年	性別	M	F
1	N=50組	24.9	30.4
2	N=13組	23.6	27.0
3	N=15組	21.6	28.1

学年を通じて共同体意識の得点は女子の方がたかい。中学1年と中学3年とを比較すると、3年になると男子では共同体意識はやや低くなる傾向がみられる。

b) 項目別の比較

共同体意識を同一視、共存性、相互依存性、共同防衛の項目にわけて、その平均値を学年別、男女別にわけて表示すると第2表のようになる。共

第2表 共同体意識の項目別の比較

学年	1		2		3	
	M N=26	F N=24	M N=5	F N=8	M N=7	F N=8
同一現	4.8	8.3	8.2	8.1	5.5	7.3
共存性	4.2	6.6	4.2	8.8	4.1	6.0
相互依存性	5.8	8.3	5.6	7.2	3.8	6.8
共同防衛	6.4	7.7	6.6	6.1	7.7	7.3

同防衛をのぞいて大体女子の平均値の方が約2点くらいたかいが共同防衛では男子と女子の平均値は殆んど同じである。また全体的にみて平均値の間の差が少いので、共同意識の四つの項目の中で各学年を通して高いもの、低いものを明らかにすることはできないが、比較的低いのは共存性である。これは双生児として2人同じような人間がいることをよく思っているかどうかと正面から聞いている項目が多いのでよいともわるいともどっちともいえないという答が多く、はっきりした傾向がみられなかったためと思われる。

学年別にみて変化のみられる項目としては特に

はっきりしたものはないが、強いてみられるとすれば相互依存性は中学1年から3年になるにつれて次第に低くなる傾向がある。

c) 質問項目別の検討

すでに示したように共同体意識についての質問紙は26項目からなっているが、この項目一つ一つについて、共同体意識のたかいもの(A)、ややたかいもの(B)、ひくいもの(C)の三群にわけて検討してみる。まず学年別、性別にわけ、ABCの3群それぞれについて $+ - ? =$ の各々の答の数が、危険率5%以下で差のみられるもの、即ち+なら+の特色を一応あらわしているとみとめられるものを拾いあげ、全体を通してみられる次の4の傾向に整理した。

①A群では+の傾向が強いがC群では-の傾向のみられるもの

1. 相手が人からほめられているのを見ると……
+私もうれしくなる。
-相手のことだから別になんとも思わない。
2. 相手がかなしそうな顔をしていると……
+わけを知らなくても私もかなしくなる。
+すぐわけをきかないと心配だ。
-相手のことだから別になんとも思わない。
10. 自分と同じような人間がもう1人いるという
ことを……
+私はとてもうれしい。
+べんりだからいい。
-なんでも半分で損だと思う。わずらしく思う。
13. 将来相手とわかれて暮さなければならぬと
したら……
+さびしく思う(いつもできるだけいっしょに
いたいから。2人いっしょの方が心強いから。
相手にたよれるから)。
-別になんとも思わない(どうせわかれてくら
さなければならぬのだから。あまり2人
いっしょにいたくないから)。
18. 一つの仕事を2人で別々にやるよりも、いっ
しよにやった方が……
+うれしい(1人ではなんとなく心細いから。
相手がいるといろいろ教えてくれるから。そ
の他)
-いやだ(1人でやった方が自分の思うとお

にできるから。相手はあまりうまくないので
損をするから。その他)

20. はじめてのところにおつかいに行くとした
ら……

+2人いっしょにいきたい(1人では心細いから。
相手の方がおつかいなど上手だから。い
つもいっしょに行くから。その他)

-私1人で大丈夫だ(いつも別々にいくことに
しているから。相手がくるとかえってめん
どらだから。その他)

②ABC群を通じて同じような傾向のみられる
もの

8. 電車の中で2人ならんでとしかけている時人
にみられると……

+私は平気ですわっている。本当はならんでい
たいのだが恥しいからはなれる。気になるが
がまんしてすわっている。

11. 他人があなたと相手とをまちがえた時
=双生児だからまちがえるのも仕方がないとい
がっていることを教えてやる。

17. 相手がゲーム(トランプなど)をしている
と……
+私もいっしょにやる。

23. 将来相手の方に困ったことがおこったら……
+たすけてやろうと思う。

26. もしも相手があるいことをしている時……
=いけないととめにいく。

③学年によって傾向のみられるもの

中学1年でA群では+、C群では疑問の傾向
がみられるが、2、3年ではなんらはっきりし
た傾向のみとめられないもの

21. もしも相手が友達からいじめられているとし
たら……

+私はたすけにいくつもりだ。
?わからない。

24. 自分たちのいやなことは……

+2人だけでひみつにしておく。
?わからない。

④全体としてばらばらでなんらの傾向のみとめ
られぬもの。

上にあげた残りの項目で特にはっきりしない項
目を示すと

- 4. 相手が病気でくるしんでいると
- 7. 双生児として生れたことを
- 9. 町で見知らぬ双生児をみると
- 16. 相手が雨戸をあけていると
- 26. 学校で相手がなにか失敗した時家に帰って

d) 双生児相互間の共同体意識の得点の差について

一对の双生児間の共同体意識の得点は大多数のものが同点又は1点の差であるが、これ以上の差のあるものもある。双生児相互間の差を男女別に示すと第3表の通りである。

第3表 双生児相互間の共同体意識の得点の差

	差	M n=38	F n=40
同一視	0-1	28	27
	2-3	9	9
	4以上	1	4
共存性	0-1	31	21
	2-3	7	15
	4以上	0	4
相互依存性	0-1	29	22
	2-3	9	17
	4以上	0	1
共同防衛	0-1	23	24
	2-3	13	16
	4以上	2	0

数字は組数を示す

女子の方が比較的差が多いものが多い。表には4点以上と示されているが男子では全部4点のものばかりであるが、女子は最高6点のものもある。同一視などの項目別にみても差の多少に変わりはない。また学年別にみても特にはっきりした傾向はみとめられない。次にABC群にわけて、これと差のあることと関連があるかをみたが、なんの関連性もみられなかった。後で調査方法の詳細をのべるが、家庭で双生児を同じように扱っているか、また別々に(兄弟としての差をつけて)扱っているかという家庭での扱い方と関連させて、こ

の差のみられる双生児についてみたが殆んど関連はみられなかった。

2. 共同体意識を発達的にみて

共同体意識の全体の得点については第1表で示したように中学1年にくらべ3年では共同体意識がやや低くなる傾向がみられたが、ここでは共同体意識を特に発達的にみてその変り方をみる。

a) 共同体意識を調べる項目の中で重要と思われる双生児として生れたことをどう思っているかという項目については学年を合わせて全体的にみるとあまりはっきりした傾向はみられなかったが学年別にして、双生児として生れたことをうれしく思っている(+), いやだと思っている(--), 別になんとも思わない(=), わからない(?)にわけて、その変動を%で示したのが第4表である。(組数が違うので%で示す。特に2年男子については総数が少ないのではっきりした結果がえられな

第4表 双生児として生れたことをどう思うか

	M			F		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
+	9.6	0	6.7	35.4	11.8	18.7
-	17.3	0	46.7	8.3	11.8	43.8
=	57.7	80.0	26.6	20.9	29.3	25.0
?	15.4	20.0	20.0	35.4	47.1	12.5

かった) これによると中学1年と3年の結果を比較すると3年になると、双生児として生れたことをいやだというものが多くなっている。

b) これを裏づける資料として、現在の3年生は3年前の入学の時に、双生児であることをどう思うかとSCTの形式できいているので、その二つの結果を比較すると第5表のようになり3年前には双生児であることをよい又はわからないとしていたものが現在ではいやだという方向に変わっているものが多い。入学時には双生児であることをいやと思っていたものがよいというように変わったものは1人もいない。

第5表 双生児であることをどう思
うかについて(入学時と現
在(中学3年)の比較)

		入学時—現在	M	計	F	計
い	や	+ → -	1	7	1	8
		? → -	2		5	
		+ → ?	4		2	
よ	い	- → +	0	0	0	3
		? → +	0		1	
		- → ?	0		2	
変らないもの		- = -	4	8	1	4
		+ = +	1		2	
		? = ?	3		1	
記入せず			1	1	1	1

説明 +……双生児であることがよい
-……双生児であることがいやだ
?……わからない
数字は人数

第6表 小学校時代と比べて、相手とい
つしよにいたり、相手のことを
考えることが少なくなったかにつ
いて

	M	F	計
少なくなった	18	11	29
同じ	4	12	16
多くなった	3	8	11

c) 更に小学校時代とくらべて、現在2人いっ
しよにいたり、相手のことを考えたりすることが
少なくなったか、多くなったかについて、中学2、3
年の男女について調べると、男子では明らかに少
くなったものが多い。(第6表参照)

d) 同じように、2人の仲について、小学校時
代と現在とを比較させると、小学校時代の方が仲
がよかったと答えたものが、男女ともに多くなっ
ている。(第7表参照)

第7表 2人の仲について

	M	F	計
小学校の方がよい	10	15	25
同じ	7	9	16
小学校の方がわるい (記入せず)	3 (6)	3 (5)	6 (11)

e) 双生児は同じ衣服をきている場合が多い
が、本人達も同じ衣服をきたいと思っているのだ
らうか。同じ衣服をきていれば特に双生児として
見られがちであり、又同じ衣服をきていればいつ

第8表

学 年	M			F		
	1	2	3	1	2	3
同じ衣服をきたい	4	6	1	10	12	3
きたくない	14	3	12	8	4	11
わからない		1	1			1
記入せず		2	2			1

(数字は人数)

も自分と同じような相手の存在をいっそう意識す
ることになるかと思われるので、共同体意識をと
らえるのに都合のよい場面として、学年別にしら
べた。(第8表参照)この結果、男子は1年でも同
じ衣服をきたくないものが14人もおり、特に学
年別にみても変化はないが、女子では1,2年では
同じ衣服をきたくないということがそれほど顕著
でないが、3年になるときたくないというものが
多くなることが明らかである。

f) 同様なことを現在の3年生は入学の時にき
いているので、3年前と現在とを比較すると第9
表に示したようになる。この結果から考えられる
ことは男子では入学の時から同じ衣服をきたくな
いものが多く、現在と比較してそり変らないが、女
子では同じ衣服をきたくなくなったものが多い。

第9表 同じ衣服をきたいかについて

	入学時→現在	M	計	F	計
同じきものな きたくな くなったもの	+ → -	2	3	7	7
	+ → ?	1		0	
きたくな つたもの	- → +	0	0	3	4
	- → ?	0		1	
前と変らな いもの	- = -	10	11	4	1
	+ = +	1		0	
未記入		2	2	1	1

説明 +……同じ衣服がきたい
 -…… きたくない
 ?……わからない

g) 共同体意識を全体的にみた場合、入学の時と3年後の現在とでは違ってくるだろうか。全く同一の質問紙を用いて1年生と3年生の共同体意識の平均値を比較すると3年生の方がやや低くなることはすでに述べたとおりであるが、現在の3年生は入学の時にSCTの形式で共同体意識をしらべ、共同体意識のたかいものから順にABCの三段階にわけたので、これと現在同様にABCの三段階にわけたものについて、個別的に比較してみると(第10表参照)入学の時共同体意識がたかいAのgroupにいれられたものは現在でもAのgroupにあるというように、他と比較して分類された共同体意識のたかい、ひくい段階は入学の時と現在と殆んど変らないことが示された。

第10表 共同体意識の比較

氏名	M		F			
	共同体意識		氏名	共同体意識		
	入学時	現在		入学時	現在	
伊加 ○	A	A	生 ○	B	B	
大萩 ○	B	B	遠 ○	B	C	
藤 ○	B	B	河 ○	A	A	
前 ○	B	C	菊e ○	B	B	
松 ○	B	A	菊h ○	C	C	
油 ○	C	C	倉 ○	B	B	
青 ○	C	C	庄 ○	A	A	
	A	欠	馬 ○	C	C	

このようにみえてくると共同体意識として考えてきたものの中で、双生児であるということをよい

としたり同じ衣服をきたいという要求のように2人の人間をまとめて一緒に扱われたり、考えられたりするようなものは、学年がすすむにつれて次第にのぞましくないとされていくが、これは自我の発達によるものであろう。このような傾向は共同体意識が全体的にたかいものにもみられる。しかし個々の双生児についてみると、共同体意識の高い一対は中学3年の現在でもなお高く、発達のなかに作用されない2人の間の友好的感情は続くものと考えられる。

3. 共同体意識と家庭での取扱い

a) 日ごろの家庭での取扱い方について、特に兄弟的な差別をつけているかどうかについて母親に質問し、平等に扱っているものと、やや差をつけて扱っているものと、差をつけて扱っているものとのわけて、これと共同体意識との関連をみた。

扱い方について質問した項目は次のようなものである。

1. 兄弟として区別しているか
2. 幼時の入浴の順
3. 食事やおやつをもる順
4. 2人を一緒に呼ぶ時どちらを先に呼ぶか
5. 人に紹介する時どちらを先にするか
6. けんかの仲裁はお兄さんだからおやめなさいというふうにするか
7. ちょっとしたお使いはどちらにたのむか
8. 大切な用事はどちらにたのむか
9. 現在たよりになるのはどちらか
10. A児を兄、姉としてたてることがあるか

この質問はすべて入学の時の面接で行われたものであり、共同体意識は現在のを用いているため多少時間的なずれはあるが、両者の関連を示すと、第11表のようになる。

第11表 共同体意識と家庭での取扱い

男子				女子			
共同体意識 取扱い	共同体意識			共同体意識 取扱い	共同体意識		
	A	B	C		A	B	C
平等	5	1	9	平等	9	3	6
やや差をつける	4	4	4	やや差をつける	4	7	1
差をつける	2	4	4	差をつける	2	3	5

この結果、男子ではあまり関連がないが、女子ではやや関連がみられる。(独立性検定では男子5%以上、女子5%以下の危険率)

b) 家庭で2人に同じように物を与えているかどうか、特に物の与え方と共同体意識の関連を調べてみた。物の与え方について質問した項目は次の四つである。

1. いつも同じ衣服をきせているか
2. 教科書、文房具はそれぞれに持たせるか
3. 1人が欲しいといった時でも必ず2人に買ってやるか
4. 1人が学校などから旅行にでた時、2人にそれぞれ1枚ずつ葉書を出すか、それとも1人にまとめて一枚だけ出すか

この質問の答の整理については、家庭で1人をそれぞれ別々の独立した人間として扱い、1人に一つずつものを与え、それぞれの好みに応じて特に同じ衣服をきせることを強制しないような型の家庭(B)と、2人をまとめて1人として扱い、2人に一つのものを与えるような型の家庭(A)とにわけて、共同体意識との関連をみた。

第12表 物の与え方と共同体意識

男子				女子			
共同体意識 もの 与え方	共同体意識			共同体意識 もの 与え方	共同体意識		
	A	B	C		A	B	C
A	8	4	4	A	11	8	7
B	4	8	10	B	4	4	6

その結果は第12表で示したように殆んど関連はみられなかった。

また同じ衣服をきせているかどうかだけを取りあげて共同体意識との関連をみたが、なんらの関連もみられなかった。というのは、共同体意識のたかいものでも、低いものでも、殆んどの親たちは同じ衣服をきせるように扱っているからである。そこで共同体意識を発達的にみた項で、同じ衣服をきたくどうかという本人たちの要求をしらべてみた結果、学年がすすむにつれて同じ衣服をきたくないというものがふえてきていることが見られたのであるが親たちは学年がすすむと本人

たちの要求どおりに同じ衣服をきせなくなるものかどうかをしらべてみると第13表のように年齢がすすんでも相変わらず同じ衣服をきせているものが圧倒的に多い、従ってこのような場合に親の扱い方と本人たちの要求とが相反してくるのである。

第13表 同じ衣服をきせているかについて

学 年	M				F			
	1	2	3	計	1	2	3	計
同じ衣服をきせる	16	8	12	36	15	12	13	40
違う衣服をきせる	2	2	3	7	3	4	0	7
記入なし	0	2	1	3	0	0	3	3

c) また親が将来2人をできるだけ協力して生活させようとしているか、またそれぞれ独立させようと考えているかということは、本人たちの共同体意識に殆んど影響を与えていないようである。(第14表参照)

このようにみえてくると、現在の調査段階では家庭で兄弟的差別をつけて扱っているか否かということが女子の場合共同体意識と関連がみられるという以外には、家庭の扱い方で共同体意識に積極的な関連があるものはみられなかった。これは調査の対象が中学生であるためすでに共同体意識というものが形成されているということや、またこの中学生の時代では共同体意識の或部分は自分と他とを区別したという自我の発達とともに次第に変ってくるため、親たちの取扱いの表面的な部分との関連はみられないのではないかと思われる。

第14表

男子				女子			
将来 共同体意識	将来			将来 共同体意識	将来		
	A	B	C		A	B	C
協力	1	3	2	協力	7	6	6
独立	6	4	9	独立	4	5	5
未記入	1	3	1	未記入	0	0	0
わからない	4	1	2	わからない	2	1	4

4. 共同体意識と性格の差異について

a) 双生児相互間にみられる兄弟的な性格の差をしらべる質問項目によって(別稿“兄弟性格・兄弟的性格と双生児における兄弟的取扱いについて”に詳述), 兄弟的性格差違のみられるもの, ややみられるもの, みられないの三段階にわけて, 共同体意識との関連をみると第15表のようになる。

第15表

男 子 N=37

共同体意識 兄弟的性格	A	B	C
差異がみられない	1	1	9
ややみられる	5	5	3
みられる	5	6	2

女 子 N=40

共同体意識 兄弟的性格	A	B	C
差異がみられない	6	3	8
ややみられる	8	5	2
みられる	1	4	3

その結果, 兄弟的性格差違と共同体意識との関連は殆んどみられない。即ち兄弟的性格の差違がはげしいからといって共同体意識がたかいとか低いとかはいわれない。

2人の中の一般的な性格のちがいについてはThurstone Temperament Scheduleを用いて2人の中の性格の差違を求めたが, これについては, 今後の研究の目的としたいと思っている性格形式の問題と関連があるので, 次回にまわしたいと思う。

む す び

双生児の相互関係といわれる共同体意識との間には考慮すべき関係が存在する。

しかし, 双生児間の相互関係についても, 共同体意識なるものについても, なお明らかにすべき点が残されているので, その間の関係をいまここで一義的に云為することは早すぎることである。また, この問題については, もっと幅広く発達段階的にみて行く必要があると思われる。